

「あいち食育いきいきプラン2025」の主要な取組

1 食を通じて健康な体をつくるための取組



- ・栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 1
- ・野菜の摂取量向上の取組【健康対策課】・・・・・・・・・・ 2

2 食を通じて豊かな心を育むための取組



- ・農林漁業体験学習推進支援への取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 3
- ・農林水産業の理解促進への取組【農政課】・・・・・・・・・・ 4

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための取組



- ・学校給食における地域の産物の活用に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・ 5
- ・地産地消の推進に向けた取組【食育消費流通課】・・・・・・・・ 6

4 食育を支えるための取組



- ・食育推進ボランティアの育成と活動の充実にに向けた取組【食育消費流通課】・・・ 7



栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状					目標 (2025)
		2021	2022	2023	2024	2025	
朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2%	92.6%	90.7%	91.3%	88.9%	89.4%	98%以上
朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9%	61.9%	61.5%	60.7%	57.9%	58.1%	80%以上

1 現状と課題

2025 年度の朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合は、89.4%と前年度から 0.5 ポイント上がったものの、ほぼ横ばいであった。食べない理由として「朝なかなか起きられない」ことや就寝時間が遅くなっているといった結果がある。生活リズムを整える、「早寝・早起き・朝ごはん推進運動」を強化していく。

朝食に野菜を食べている小中学生の割合についても前年度とほぼ変わらない結果であった。野菜の値段の高騰等課題が多いが、バランスの良い食生活の大切さについて、今後も学校から保護者へ働きかけてもらうよう、研修会や大会で呼びかける。



朝食に野菜を食べている小中学生の割合

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」(以下「朝ごはんコンテスト」という)については、7,153 点の応募があった。学校の管理職や食育推進者、栄養教諭等に向けて、バランスの良い朝食に関する研究事例を各種研修会等で紹介した。

【SHIN 化の内容】〈深化〉

朝ごはんコンテストで、共催する愛知県学校給食会から参加賞の配付、優秀作品 100 点と本選動画の WEB 公開等に取り組むなど、引き続き、朝食の大切さについて啓発を図っていく。

(2) 2026 年度以降の取組 (予定)

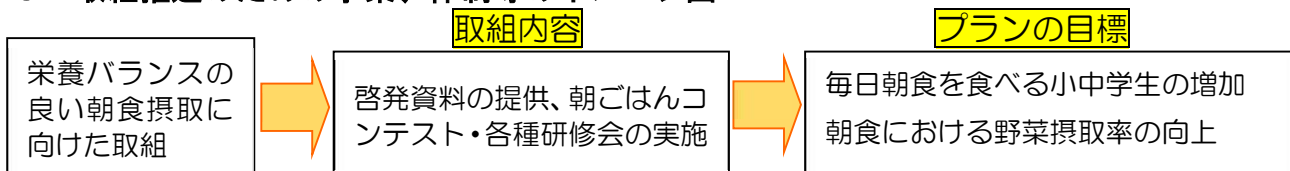
- 朝ごはんコンテストの実施
- 保護者向け食育資料の提供、「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動の実施
- 学校関係者向け、食育に関する各種研修会での事例紹介



朝ごはんコンテスト最優秀作

『いつもの朝ごはんがあいちの食文化で大変身!! オリジナル鮭ひつまぶし定食で楽しい朝ごはん』

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





野菜の摂取量向上の取組

保健医療局健康医務部健康対策課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状					目標 (2025)
		2021	2022	2023	2024	2025	
毎日野菜を3回以上 食べている成人の割合	17.7%	17.5%	—	17.3%	—	17.1%	20%以上



1 現状と課題

毎日野菜を3回以上食べている成人の割合は、2020 年度から微減する状況となった。

「2022 年愛知県生活習慣関連調査」では、野菜料理を食べない理由を「用意する手間がかかる」と回答した人が多く、外食等利用頻度と野菜摂取頻度に関連があった。手軽な野菜摂取や外食等における野菜料理を選択できる環境づくりを推進し、野菜の摂取機会を増やすことで野菜摂取量の増加を図る必要がある。

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

8月31日から1か月間を取組強化期間とした保育園等における普及啓発、スーパーや宅配サービス等の食環境づくり支援により、手軽な野菜摂取の方法を提案する取組を行った。

また、食育推進協力店登録事業において、外食等における野菜たっぷりメニューの提供や野菜の追加サービスができる店舗の登録促進を図った。

【SHIN 化の内容】〈進化〉

外食、お弁当・総菜、家庭内調理の機会において、食品関連事業者等と連携し、多様な手法で野菜摂取量の向上を図る取組を推進した。



スーパーにおける食環境づくり



食育推進協力店ステッカー



登録募集リーフレット

(2) 2026 年度以降の取組（予定）

「あいち食育いきいきプラン 2030」

では、野菜摂取量の増加を指標に掲げ、地域における関係団体と連携した取組を展開し、県民が食を通じて自然に健康な体をつくるための環境整備を推進する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





農林漁業体験学習推進支援への取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状						目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	
農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合	77.8%	68.5%	69.8%	71.1%	73.0%	72.9%	70.2%	80%以上

1 現状と課題

2025 年度の農林漁業体験に取り組む小学校の割合は、70.2%と減少した。体験学習に必要な時間数が確保できない現状があるが、地元の農家やＪＡなどを呼んで行う農業体験学習等、各方面の協力を得て情報発信、情報提供を今後も積極的に行う。



田んぼ活動(岡崎市立下山小学校：
第3回あいち食農教育表彰教育委員会賞)

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

学校関係者、栄養教諭等向けの各種研修会で、研究校の食育(農林漁業体験を含む)に関する事例発表を行った。

食育消費流通課作成の小学校における農林漁業体験学習の啓発チラシ「授業、クラブ・課外活動などに『農林漁業体験学習』を積極的に取り入れてください!」、「食育推進ボランティアに食育活動を依頼してみませんか!」を小学校等に送付した。

水産課より、水産業への理解を深めるためにパンフレット「愛知県の水産業」と下敷き「愛知県の主要な水産物」が小学5年生に配布された。

【SHIN 化の内容】〈伸化〉

愛知県教育委員会とＪＡグループ愛知との相互連携に関する協定締結に基づく、「第3回あいち食農教育表彰」がＪＡ愛知中央会主催で行われた。各学校で行われている農業体験について、模範的な取組が新聞等で報道されることで、農業体験への興味・関心が高まり、先進事例として周知が図られた。

一方で、「海部地域の旬を味わう学校給食の日」や「地元の味を楽しむスペシャル週間」などのアイデアあふれるテーマを各市町村で決定して取り組む、「愛知を食べる学校給食の日」を機に、各市町村独自の地産地消の推進も行われている。

(2) 2026 年度以降の取組(予定)

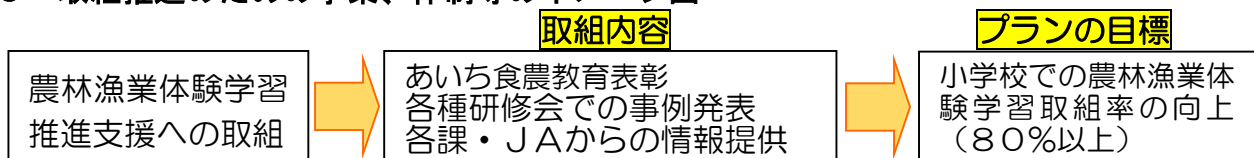
○「あいち食農教育表彰」を通しての農業体験の拡充

※愛知県教育委員会からの応募依頼発送に合わせて、応募の増加の呼びかけとともに、農業体験の更なる拡充を呼びかける。

○各種研修会における研究校の農林漁業体験に関する事例発表

○各課(食育消費流通課、水産課等)の体験学習に関する情報提供

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





農林水産業の理解促進への取組

農業水産局農政部農政課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状						目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	
県等が実施するイベントや 農林漁業体験の参加者数	14.6 万人	13.4 万人	13.6 万人	15.0 万人	16.8 万人	16.5 万人	14.2※ 万人	18.5万人 以上

※2025 年度は推定値（とりまとめ中）

1 現状と課題

県民に農林水産業や農山漁村への理解を深めてもらうための手段の一つとして、花と緑のイベントや、試験場公開デー、出前授業など各種イベントや体験活動等を実施している。

多くの取組みで参加者数は増加傾向であったが、夏季の暑さ、少子化などの要因が参加者数の伸びに影響したと考えられた。県等が実施する出前授業や各種イベントへより多くの県民が参加できるよう、参加手法の工夫や内容の充実を図ることが必要である。

2 主な取組

（1）2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

ア 県が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数 6.8 万人

農業総合試験場公開デー、花と緑のイベント、小中学生対象の森林づくりの体験活動、森と緑づくり体感ツアー、水産試験場公開デー、畜産フェスタ、出前授業等（水産・農業農村整備）

イ 県が把握する多様な主体によるイベント等への参加者数 7.4 万人

○子供世代向け

小中学生を対象とした農林漁業体験、漁業者による出前授業への参加

○大人世代向け

市民農園・農業体験農園・農業塾での農業体験、県民を対象とした森林・林業体験

【SHIN 化の内容】〈深化〉

施設の改修により一部のイベントの開催ができなかったため、計画を下回る結果となったが、個々の取組では、参加者数は増加傾向だった。

今後はより農林水産業や農山漁村に興味を持ってもらうために参加手法の工夫や内容の充実を行い、継続した啓発による県民の理解促進を行う。



水産試験場公開デー

（2）2026 年度以降の取組（予定）

県民の本県農林水産業への関わりを深めるため、引き続きイベント等を開催していく。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【農林水産業に係るイベント等の開催】

○県が実施するイベント等

○市町村・関係団体等が実施するイベント等

農林漁業を応援・
体験し参加する
機会の提供

農林水産業や農山
漁村への理解を深
める県民の増加



学校給食における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

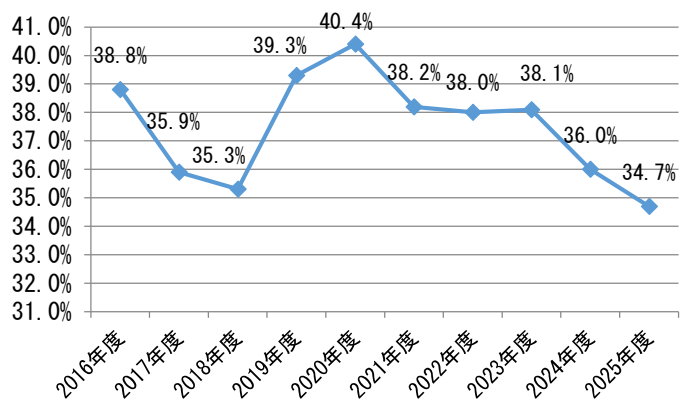
項目	基準年	現状						目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	
全食品数に占める 県産食品数の割合(%)	40.4% (2020)	—	38.2%	38.0%	38.1%	36.0%	34.7%	45%以上
年間に使用した 県産食品の種類	55 (2019)	57	58	59	55	54	—	60 種類 以上

1 現状と課題

2021 年度から横ばいが続いていた全食品数に占める県産食品数の割合は、2024 年度から大きく数値を下げています。今なお続く価格高騰をはじめ、天候不順等が大きな要因であり、今後も続くと予想される。

年間に使用した県産食品の種類についても、2023 年度からさらに減少した。

こうした状況から、今後も、地域の産物を活用することが、児童・生徒の豊かな心を育み、SDGs にもつながる環境にやさしい取組となることを、関係機関や各学校へ働きかけていく必要がある。



全食品数に占める県産食品数の割合

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

全市町村において、地場産物を活用した学校給食を提供する「愛知を食べる学校給食の日」を年3回実施した。また、学校給食県産農産物使用促進に関する各市町村の担当との意見交換会を、食育消費流通課とともに毎年行っている。この他、学校給食における地場産物の活用に関する調査を実施し、地場産物を使用する上で、「使用量が確保できない」と回答する市町村が 90.7%と、昨年度から約5%も上がっている。また、「価格が高い」が 64.8%など、地場産物の供給面の課題が続いている。

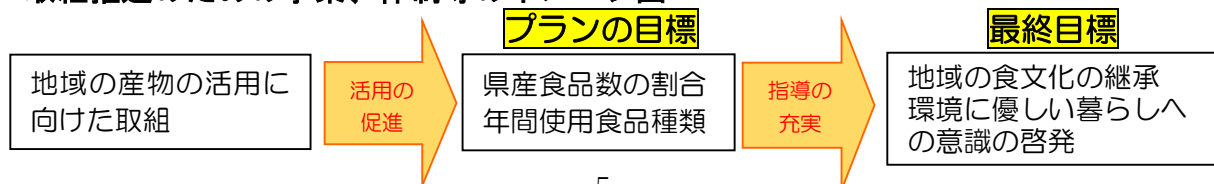
【SHIN 化の内容】〈伸化〉

「愛知を食べる学校給食の日」の取組に合わせて、地元の有機農産物を使用した献立を計画したり、地場産物や生産者を紹介する食育関連資料を作成して、食に関する指導に活用したりすることで、地産地消への関心がより高まるようにした。

(2) 2026 年度以降の取組 (予定)

- 「愛知を食べる学校給食の日」の実施（年3回：6月、秋、1月）
- 学校給食県産農産物使用促進に関する意見交換会等を、食育消費流通課とともに実施
- 「学校給食における地場産物の活用に関する調査」の実施（11月）

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





地産地消の推進に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 2020	現状					目標 (2025)
		2021	2022	2023	2024	2025	
県産農林水産物を優先して購入する県民の割合	15.4%	13.3%	—	18.6%	—	19.6%	25%以上
「いいともあいち運動」を知っている人の割合	22.7%	24.2%	—	22.2%	—	26.9%	28%以上



1 現状と課題

「県産農林水産物を優先して購入する県民の割合」は 19.6%となり、基準年から 4.2 ポイント上昇したものの、目標を下回った。また、「『いいともあいち運動』を知っている人の割合」は 26.9%となり、基準年から 4.2 ポイント上昇したものの、目標を下回った。

2022 年度から、地産地消が SDGs に貢献することを前面に押し出し、「地産地消あいち SDGs 推進キャンペーン」を行って地産地消の実践を促すための取組を実施したことで各項目の値は基準年より大きく上昇したものの、県産農林水産物の優先購入については若年層ほどその割合が低く、「いいともあいち運動」については 30～40 代での認知度が低かった。

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

- ・県産のレンコン、豚ひき肉、しいたけを使ったレシピ動画を大手レシピ動画サービスで配信し、量販店等 58 店舗で放映した。
- ・9～2 月に、県産農林水産物を積極的に扱う「いいともあいち推進店」(参加店舗：428 店舗)を巡るデジタルスタンプラリーを実施した。
- ・社員食堂、学生食堂(1 社・1 大学)と連携し、県産農林水産物を使用した地産地消メニューフェアを開催した。
- ・11 月に Instagram を活用して地産地消レシピコンテストを開催し、42 点の応募があった。

【SHIN 化の内容】〈新化〉

地産地消レシピコンテストを初めて開催するにあたり、県民に自ら情報発信をしていただくきっかけづくりのため Instagram による投稿とし、県民の地産地消の理解促進と実践を図った。

(2) 2026 年度以降の取組(予定)

引き続き、地産地消を進めるため、SNS 等を活用しながらデジタルプロモーションや体感型プロモーション等を実施し、県産農林水産物に接する機会を創出していく。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

県産物の需要拡大へ!!



県産農林水産物を優先して購入する県民・「いいともあいち運動」を知っている人の割合の向上

いいともあいち魅力向上推進事業

あいちの農林水産物魅力発信事業

その他の取組



食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

農業水産局農政部食育消費流通課

項目	基準年 (2019)	現状						目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	
食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	11.1 万人	1.3 万人	2.7 万人	5.7 万人	4.5 万人	6.8 万人	9.5 万人	12 万人以上 / 年間
食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数	227 回	138 回	287 回	289 回	352 回	316 回	409 回	240 回以上

1 現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「ボランティア」）」は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、2026 年 3 月末時点では、938 名が登録している。

2025 年度の「ボランティアから食育を学んだ人数」は 9.5 万人で、2020 年度にコロナ禍による活動休止等で大きく落ち込んだ後、県内各地で活動再開し増加傾向にあるが、目標には達していない。要因の一つに、ボランティアの高齢化が考えられ、個人登録者の活動が停滞していることが問題となっている。

一方、「ボランティアと学校・企業等の連携回数」は 409 回と目標を大きく上回り、グループ登録者を中心に連携が図られている。

2 主な取組

(1) 2025 年度の取組実績とその「SHIN 化」

食を支える取組をテーマに、「あいち食育いきいきシンポジウム」や「調理講習会」を開催した。

また、各地域において、ボランティアの知識及び技術の向上を目指した研修交流会を開催した。

- 「あいち食育いきいきシンポジウム」（参加者：47 名）
- 「農家直伝！レンコン活用調理講習会」（参加者：32 名）
- 「地域食育推進ボランティア研修交流会」（参加者：7 地域 220 名）

さらに、YouTube チャンネル「あいち食育いきいきチャンネル」にて、ボランティアの活動に関する動画を作成し、配信した。

【SHIN 化の内容】〈新化〉

あいち食育いきいきシンポジウムでは、食育活動の情報を広く発信できるよう、SNS の活用をテーマにした。

(2) 2026 年度以降の取組（予定）

2025 年度に引き続き、食育を支える多様な関係者の取組について学ぶシンポジウム等の開催やボランティアと連携し、食育の取組を紹介する動画を作成、配信する。

また、食育に取り組む大学や団体への呼びかけ、大学生等と連携した食育活動などを通して、新たなボランティアの掘り起こしを進めていく。



あいち食育いきいきシンポジウムの様子

あいち食育いきいきチャンネル
二次元コード

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

< 目標 >

【ボランティアに対し】

- ・シンポジウムの開催
- ・調理講習会の実施
- ・研修交流会の実施

食育推進
ボランティアの
資質向上

学校・企業・団体
と連携した
ボランティア活動

県民の「食育の実践力」の向上

- ・健全な食生活
- ・心身ともに豊かな暮らし